

第65回日本泌尿器科学会群馬地方会演題抄録

日 時：平成 25 年 11 月 2 日 (土) 15 時 00～
場 所：群馬大学医学部内 刀城会館
会 長：小林 幹男 (伊勢崎市民病院)
事務局：柴田 康博 (群馬大院・医・泌尿器科学)

〈セッション I〉

座長：狩野 臨 (黒沢病院)

そ の 他

1. スニチニブ大量内服による自殺企図を来した腎癌症例における薬物動態の検討

新井 誠二, 松井 博, 大木 亮
小池 秀和, 柴田 康博, 伊藤 一人
鈴木 和浩 (群馬大院・医・泌尿器科学)
坡下 真大, 山本康次郎
(群馬大院・医・薬剤部)
勝山 善彦, 大森 栄
(信州大学医学部附属病院 薬剤部)

60 歳男性. 右淡明型腎細胞癌 pT2N0M0 に対し天然型 IFN α 投与を開始したが, 8ヶ月後に鬱病が出現し, 投与を中止した. IFN α 投与中止 2 年半後に生じた多発肺転移に対し遺伝子組換え型 IFN α 投与を開始したが, 鬱病の増悪は認めなかった. 投与開始 4 年半後に生じた脳転移に対し放射線療法を施行し, その後スニチニブ投与を開始した. スニチニブ投与開始 1 年半後にスニチニブ, プロチゾラム大量内服による自殺企図を来した. 救急搬送時は意識不明瞭, 種々の理由から血漿交換は行わず補液にて経過観察し, 精神科との連携治療を行った. スニチニブ血中濃度は 321ng/ml と著明高値を認めたが徐々に低下し, 致命的副作用も出現しなかった. 投与中止 1ヶ月後に意識状態, 鬱症状も改善し, 本人の希望もあり家族による薬剤管理とした上でスニチニブ投与を再開した.

臨床症例

2. 治療に難渋した後腹膜鏡下左腎摘除後リンパ漏の 1 例

大山 裕亮, 新井 誠二, 関根 芳岳
富田 健介, 宮澤 慶行, 加藤 春雄
周東 孝浩, 古谷 洋介, 新田 貴士
野村 昌史, 小池 秀和, 松井 博
柴田 康博, 伊藤 一人, 鈴木 和浩
(群馬大院・医・泌尿器科学)

症例は 73 歳女性. 左腎癌 cT1aN0M0 に対し後腹膜鏡下左腎摘除術を施行. 経過良好で術後 6 日目に退院. 術後 23 日目に腹部膨隆, 腹満感を主訴に受診. CT で後腹膜腔に液体貯留認めため, 同日入院し緊急ドレナージ施行. 排液は白色の乳びでリンパ漏と考えられた. 禁食で改善するが食事再開で再度悪化. ドレナの位置を調整しながら保存的に加療を行い, 術後 74 日目にドレナ抜去となった. 退院後は再貯留なく経過している. 腎摘除後のリンパ漏はまれな合併症であるが, 発症すると長期化することがあり注意が必要である. 近年, 禁食および中心静脈栄養で改善を認めない場合に, 手術療法やソマトスタチン製剤の報告がなされている. 文献考察を加えて本症例を報告する.

3. 持続勃起症を契機に発見された慢性骨髄性白血病の 1 例

宮澤 慶行, 富田 健介, 大山 裕亮
加藤 春雄, 周東 孝浩, 新井 誠二
新田 貴士, 古谷 洋介, 関根 芳岳
野村 昌史, 小池 秀和, 松井 博
柴田 康博, 伊藤 一人, 鈴木 和浩
(群馬大院・医・泌尿器科学)
青木 雅典, 井上 雅晴, 武井 智幸
(公立藤岡総合病院 泌尿器科)

32 歳男性, 既往歴なし. 起床後から持続する勃起を自覚し近医受診, 改善無く前医受診し, 持続勃起症の診断